

PISA (Programme for International Student Assessment) で求められている読解力教育の重要性

玉木正弘 (准教授)

大城隼人 (助教)

要旨

本稿においては、近年の教育の現状を考慮し、PISA で求められている読解力教育の重要性とその読解力教育を採り入れた成美高校の学びのメソッドをベースに読解力の必要性を主張する。

キーワード: OECD、PISA、読解力、学習効果

はじめに

周知の如く、大学教育の現状については、文部科学省中教審大学分科会大学教育部会の答申（平成24年3月26日）が詳しい。同答申によると、大学教育には期待せず、入社後に鍛え上げるという高度成長時代の大学観は変容しており、高等教育のユニバーサル段階の中で大学教育の質の保証が強く求められている。

今、大学に求められているのは学士課程教育の質的転換である。それゆえ、大学教育の使命は、(1)「答えのない問題」について、これを発見し原因を究明し最善解を導く能力を鍛えること、(2) 実習や体験活動などを伴う質の高い効果的な教育によって知的な基礎に裏付けられた技能を身につけさせること。つまり、学生が自らの人生を切り開くための最大の財産を獲得させることであるとしている。期待される能力や内容が多岐にわたってきているといえる。

2015年の教育に関する議論として、「グローバル型・ローカル型大学論争の深層」『週刊東洋経済』(2015年1月31日号)と題し、問題提起されている。スーパーグローバル大学⁽¹⁾においても、英語をベースに各講義においても、アクティブラーニング等を実施しているところである。

同答申による「答えのない問題」について、これを発見し原因を究明し最善解を導く能力を鍛えることを目的とした「問題解決」手法において、問題を解決していく過程が当然ながらある。問題解決過程を整理すると【表1】のとおりである。

まず、スタートの段階で「問題の把握・発見する能力」を有するには、知識の量や技能の速さより、持っている知識や技能を問題解決のために使う「思考力」や「応用力」、また社会の変化に応じて新

しいものを学び続ける「学習力」が重要であると考えられる。その根幹をなすのが「読解力」であるといえる。

「読解力」の重要性については、OECD（経済協力開発機構：以下 OECD という）は十重に認識し、OECD 加盟国の生徒の学習到達度調査（PISA）を3年ごとに調査し実態を公表しているところである。「読解力」の強化は、国際的に求められている基礎的要素である。

特に、言及すべき点として、少子化の波が打ち寄せている日本国、また地方においては顕著に表れる。最も重要な資源はなにより「人材」である。ハイテク産業を維持・発展させるためには、労働力の質つまり、教育の質を上げることが必要不可欠である。

本稿においては、2003年のPISA調査で読解力と科学部門、2006年にも科学部門で世界一位になった「フィンランド教育」の特徴とその教育システムを導入し、名門校^②となった「私立福知山成美高校の教育方針」をベースに読解力の重要性を説く。

一見、高等学校の教育手法と思われがちであるが、進学校のカリキュラムから学ぶべきことは多くあり、多くの示唆を生むものである。また、OECDと同様の見解であるが、教育は小・中・高・大とカリキュラムを連携して学ぶことが最大の学習効果を生むといえる。

近年の高等教育においては、「生きる力^③」「リテラシー^④」「人間力^⑤」「キー・コンピテンシー^⑥」「就職基礎能力^⑦」「社会人基礎力^⑧」「学士力^⑨」「汎用的機能/分野別^⑩」「エンプロイヤビリティ^⑪」「成人力^⑫」等と多くの要素が求められている。また、経営手法も多様化しているのも事実である（表2）。

その根幹を追求しても、PISA・読解力へ帰着すると考えられる。カリキュラムの過程において、ビジネスプロフェッショナルが実践するための問題解決のための思考トレーニングである、①問題の把握では、「ロジックツリー」「MECE」「3C分析」「4P分析」「5F」「7S」「マンゾフのマトリックス」「バリューチェーン」「SWOT」「PPM」等で問題を把握した上で、分解に役立つフレームワークで分類する、②原因の調査・分析では、「ワークプランニング」「データ入手」等を行う、③解決策の立案では、「ピラミッド・ストラクチャー」、④解決策の実施には、「マーケティング近視眼」等と手法と最終段階へ行きつぐだけの段階がある。

進学校には、「何を知っているか（what they know）」よりも「何ができるか（what they can do）」と舵取りを切り、成果を残した過程から、学ぶべき点は多い。これらは、教員の評価や教育志向も含まれる。

したがって、本稿においては、その内容と学習効果を紐解くことを目的とする。学ぶことは生涯学習につながり、学習効果の向上を図る指標になることを目的とする。また、文科省が求めている大学教育における「教育から学習への転換」であるアクティブラーニングをディープ・アクティブラーニング^⑬へ引き上げ、深く考える指針になるきっかけになることを目的とする。

【表 1】問題解決の段階



【表 2】経営の多様化

| | | |
|--------------------|---|--|
| 製造・流通 | サプライチェーンマネジメント リーン・マネジメン TOC（制約条件の理論） ファブレス化（グローバル化） OEM（アライアンス） 水平分業 | 川上統合 SPA モデル プライベート・ブランド オープン・イノベーション フランチャイズ化 6次産業化 |
| 販売 ・ マーケティング | ソリューション POS システム 電子マネー レザーブレード デファクト・スタンダード ダイレクト販売 | ブラックフォーム・モデル フリー／フリーミアム アンパンドリング オムニチャネル ワンプライス・ショップ ブランド拡張 |
| IT ・ マルチメディア | インバウンド・マーケティング キュレーション パス・マーケティング フラッシュ・マーケティング ゲーミフィケーション クラウドファンディング | キーワード広告 SSL プロダクト・プライスレス e マーケットプレイス ロングテール オンデマンド販売 |
| 経営戦略 ・ 組織改革 | ドミナント戦略 プライス・リーダーシップ戦略 同質化戦略 ブルーオーシャン戦略 顧客ロックイン戦略 地域ブランド戦略 | レバレッジド・バイアウト カンパニー制 アメーバ経営 ダイバーシティ経営 サステナビリティ経営 |

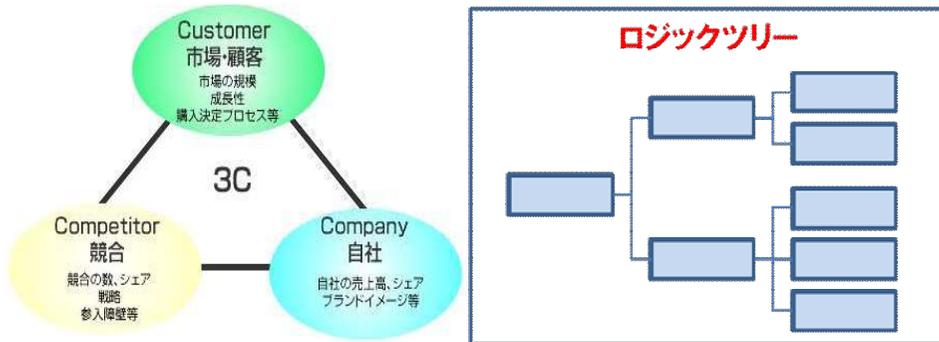
著者作成

【表 3】問題解決思考（根拠）の基本（著者作成）

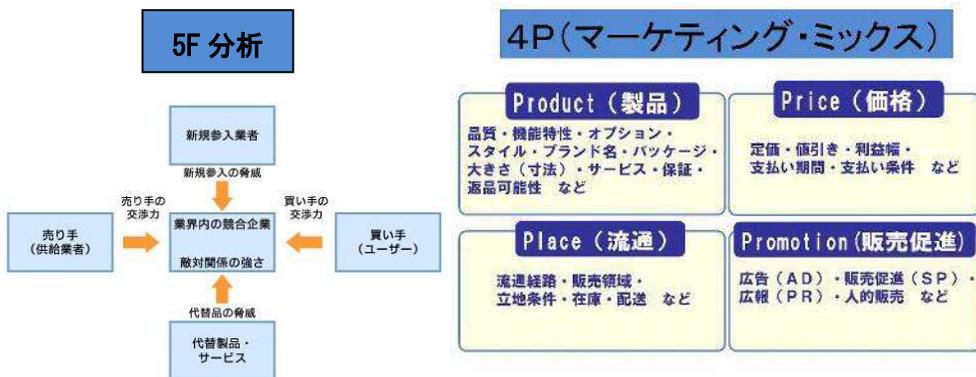
| | |
|------------------------|---------------------|
| 原因・結果 | 5W1H |
| 主張・根拠 | PEST |
| メリット・デメリット | 3C |
| Incentive・Disincentive | STP |
| アメ・ムチ | 4P |
| 実効性・実行性 | AIDMA |
| 費用対効果 | プロダクト・サービス |
| インプット・アウトプット | 機能・デザイン |
| 需要・供給 | Push・Pull |
| ストック・フロー | リアル（地上戦）・バーチャル（空中戦） |
| 公・私 | 売買市場・賃貸市場 |
| On・Off | 新品市場・中古市場 |
| 個人・環境 | 新規・既存 |
| 加害者（能動）・被害者（受動） | 個人・法人 |
| 外的・内的 | 個人・世帯 |
| 予防・対処 | 都市・田舎 |
| 自発（「太陽」）・強制（「北風」） | ヒト・モノ・カネ・情報 |
| 自力・他力 | 時系列 |
| 質・量 | 朝・昼・夕方・夜・深夜／春夏秋冬 |
| 物理的・精神的 | 年齢・性別 |
| 一般・特殊 | 頻度・同行形態 |
| 衣食住 | 社会人・学生（社会的属性） |
| 頭・心・体 | 売買市場・賃貸市場 |
| 心・技・体 | 新品市場・中古市場 |
| Will（Mind）・Skill | 新規・既存 |
| 知識（理論）・経験（実践） | 個人・法人 |
| 戦略・戦術・戦闘 | 個人・世帯 |
| 五感（視覚・聴覚・嗅覚・触覚・味覚） | 都市・田舎 |
| ヒト・モノ・カネ・情報 | 時系列 |

【表 4】

育成問題の分析に役立つ「フレームワーク」



おさえて役立つ“定番”フレームワーク



SWOT 分析

SWOT分析

| | プラス面 | マイナス面 |
|------|-----------------------|--------------------|
| 内部要因 | 強み (Strengths) | 弱み (Weaknesses) |
| 外部要因 | 機会 (Opportunities) | 脅威 (Threats) |

組織変革の7Sモデル



PPM



アマゾフのマトリックス



バリューチェーン

バリューチェーン(価値連鎖)の基本形



1 OECD が重視する「PISA (Programme for International Student Assessment)」で求められる読解力とは

OECD が進めている PISA (Programme for International Student Assessment) と呼ばれる国際的な学習到達度に関する調査に、日本も参加しており調査の実施を行っている。PISA 調査では 15 歳児を対象に読解力、数学的リテラシー、科学的リテラシーの三分野について、3 年ごとに本調査を実施しているところである。

米国においては、読解力を踏まえた NAEP (National Assessment of Educational Progress) ⁽¹⁴⁾ を実施している (NAEP では、心理測定が加味される⁽¹⁵⁾)。

読解力は、ポジションによって解釈が異なる、OECD で試される読解力は、一般的に、第 1 段階では、自分の知識はなくてもそのまま理解できればいい、文字面が分かればいいというものである。第 2 段階では、第 1 段階を踏まえ、考えが生まれてくるというものである。第 3 段階では、その考えやテキストに書かれていることと自分の知識や経験とをつなげてことである。第 4 段階では、内容や構造を検証する「分析」ができることである。最終的に、言語や構造という側面を含め、テキストを分析的に読み、学習者がテキストを評価できることを目標とする。

読解力教育について、東京大学秋田喜代美教授は、「私は 3 つの次元が必要だと思っています。1 つ目の次元は、読解力を 1 時間の授業だけで考えるのではなく、どのような包括的なカリキュラムを作るかを考える必要性です。そして、授業の中で実際にどのような教材を使い、どう実践をすべきかが 2 つ目の次元です。さらにマイクロになり、教室内での談話としてのやりとりのレベルで、個々の子どもと教師との間でどのようなことが行われたらよいか、3 つ目の次元になると思います⁽¹⁶⁾」と包括的な評価をしている。

PISA においても NAEP においても、現在の教育においては、「何を知っているか (what they know)」よりも「何ができるか (what they can do)」が求められている。

2 成美高校の取組み⁽¹⁷⁾

(1) 基本理念

「ことばと心の教育」で人間力の育成を目指す。「人間力」は「学力」・「行動力」・「規範力」(真・善・美)としている。「学力」の基盤は「言語力」とその要である「読解力」であり、この点で先駆的成果を上げているフィンランドのメソッドに学ぶ。

(2) 授業の改革

授業の改革として、中高一貫教育を見すえ、現在の高校の授業を改革する。目指すのは、確かな「言語力」に支えられた(本物の学力=探究力)をつける授業

(3) 「言語力」の要である「読解力」が学力の向上を支える基盤の確立

PISA 型「読解力」(Reading literacy)の定義を重視した上で、「自らの目標を達成し、自らの知識と潜在能力を高め、社会に参加するために、書かれたテキストを理解し、活用し、憲章・評価する力」を養う。

(4) 成美高校が目指す「読解力」

課題を設定し、これを解決するために必要な資料を収集、分析し、その内容から筋道立てて考え、判断・評価できるとともに、自分の考えが伝わるように表現し実社会や実生活に生かすために、これを活用する力を養う。

(5) 新教科「読解科(読解プロジェクト)」の設置

学力の基盤となる「読解力」は、各教科に共通して生きて働く力であり、各教科の中でもそれぞれに育成が図られるべきものであるが、教科の特殊性を超えた観点から「読解力」を取り出すことで、その育成が一層効果的なものになると考えられる。

(6) 各教科での「読解力」育成の取り組み

「読解力」は各教科を貫く力であるという前提にたつて、各教科の特殊性のなかで「読解力の観点から育てたい力」を設定し、各教科の目標を達成する過程で「読解力」も同時に伸ばすような、新たなカリキュラム作りに取り組む。

(7) 「総合的学習」の見直し

探究学習の時間として見直す。コース・クラスの特性に依じた研究フィールドを設定し、生徒の関心に応じてテーマを選び、問題設定し、情報収集し、考察・判断し、まとめた成果をプレゼンテーションする。その過程で「読解力」の一層を伸長を期する。

(8) コース・クラスの変更

コース・クラスの変更のコンセプトやコース構成をシンプルにする。コースが、偏差値による「輪切り」で決定されているというイメージをなくす。コースは、偏差値ではなく、生徒の目的・目標で選べるよう設定する。3年間固定ではなく、目標と適正に応じてコース間を移動できるようにする。募集の観点からも、そのコースで何ができて、3年後に何をを目指すのか、中学生・保護者の目にははっきり分かる明確な目標・特色を持ったコースにする。

(9) 教育構想

「言語力」を教育の柱にした「小・中・高一貫教育」を想定。「真・善・美」のもとに、知育に偏らない全人格的な教育を教育目標に掲げる成美学園は、「小・中・高一貫教育」により、子供たち一人ひとりが自立した人生を創り、個性や能力を伸ばし、夢を育むことができる人間の育成をめざす。

さらに、グローバルな社会では、人種や文化の違いを乗り越え共生していくことや幅広い知識と柔軟な思考で新たな知を創造し、活用して社会を構築していくことが求められているため優れた人材を育成し輩出する。

そこで、フィンランドの言語力教育を一つの理想と考え、フィンランドの教育を取り入れた「学びのメソッド」を新たに開発し、理論と実践のバランスがとれた学びを通じて、一人ひとりの個性の伸長と自ら学ぶ力、世界に通用する学力を育成する。

(10) 「学力」と「人間力」の育成

「学力」を育成するために必要な力。基礎学力の充実を図る。ステップを明確にしたカリキュラムの学習を通じて、社会で生きていくうえで必要な知識および能力を確実に習得させることをめざす。ボランティア、インターシップ、企業などの体験により、社会を構築していく基礎となる力を育成する。

(11) 読解力・読書力の向上

フィンランドの教育を取り入れた「学びのメソッド」で、課題を解決するまでに必要な読解力のポイント「問題設定力」、「情報収集力」、「論理的思考力」、「表現力」「コミュニケーション力」を、個別のおよび総合的に身につける。

(12) 探究力を高める

論文作成やプレゼンテーションを経験する中で、「自ら課題を設定し、その課題を解決する」ために必要な思考力、判断力、表現力をはぐくみながら、探究する態度を育成する。

(13) 「人間力」を育成するために必要な力

- コミュニケーション能力を身につける

相手の考えや立場を理解し、また、自分の考えを相手が納得できるよう表現し、互いに交流する中で、さらに考えを深めていくことができる力を身につける。

- 感じる力と創造力の高揚

感じたことや想像したことをことばや音楽、演劇で表現する中で、創造することの喜びを体得させ、豊かな心をはぐくみます。

- 自己有用感を育む

ポートフォリオ（生活の様子や学習内容などを綴った軌跡となるもの）を作成し、これで振り返りながら次の計画をたてて、実行をする。達成感と新たな目標を明確にすることにより主体的に取り組む態度を養い、自己有用の意識を高める。

3 成美高校の教育目標と特徴と特色

成美高校では、『「ことば」と「心」を育てる教育』を目指し、「生徒が育つ授業」を実践するためにフィンランド教育の方法を取り入れた独自の『成美・学びのメソッド』の開発に着手している。それは生徒の「知りたい・学びたい」という好奇心に応え、学ぶ力を養うことを目指す「学びのメソッド」である。

『成美・学びのメソッド』をすべてのコースで取り入れて、「生徒が育つ授業」を展開している。この授業は、教師が知識や思考過程を教え込むのではなく、教師が下に掲げる「場」や「時間」を積極的に取り入れ、また生徒の発達段階に応じた適切な「学び方」のアドバイスをしながら、生徒の「自主・自立」につなげるものである。

重視した「生徒が育つ授業」に大切な「場」や「時間」

- 主体的に学習に取り組む

生徒が主体となり、学習課題と学習計画を設定します。

生徒が授業を司会して、課題の解決にまで導きます。

- 考えが深まる交流

小グループで生徒個々の考えを話し合わせ、考えをまとめる。

中グループまたはクラス全体で、小グループの考えを発表し互いに批評をする。

クラスとして考えをまとめあげる。

- 考えを創る方法

カルタなどを活用して、考えを辿る、創る。

図書館やインターネットを利用する。

- 思考すること

課題解決までに生徒が個々に、またはグループで「とことん悩む」や「どうしても分からない」、「やっと答えがでた」という過程を経験すること、または能動的に身をおくことが大変重要である。

具体的には、下記の『「読解」導入ワークシート』に基づき行われる。一部であるが、公開する。

| エリア | エリア探求Ⅰ 講座名 | エリア探求ⅡⅢ 講座名 |
|---------|-------------------|---------------------------|
| 理系総合 | 数学でアート | 微分・積分演習/ベクトル演習 |
| | 自然科学 | 生物・科学演習/物理演習 |
| 文系総合 | 読書論述研究 | |
| | 劇的紀行文を書く | センター国語実習演習/記述国語実践演習 |
| | 異文化研究 | センター英語実習演習/記述英語実践演習 |
| 健康科学 | トレーナ論 | 基礎看護/福祉基礎 |
| | 食物と健康との関わり | 栄養とライフスタイル |
| スポーツ科学 | 「自然な動き」を極める | 運動概論・スポーツの指導法と安全 |
| | 体育理論 | 運動概論・スポーツの運動と管理 |
| | 研究ビジュアルスポーツ | スポーツ演習 |
| 人間科学エリア | 漢字についてと国語の今昔 | 子ども環境/ボランティア活動 |
| | 子供文化 | 国語演習/英語演習 |
| 総合情報 | 目指せ！歴史通 | |
| | ニュース検定資格取得講座 | 経営戦略・情報活用 |
| | 「進路のための実践的調べ学習」講座 | 国際経済・ビジネス技術 |
| 情報科学 | 食堂メニューを考えよう | 財務会計Ⅰ・情報処理・プログラミング・ビジネス実務 |

エリア探求科目[研究テーマ例]

- 「数学でアート」

図形や折り紙を使ってデザイン・工作する。図形の性質を知りいかにうまく使いこなせるかが問われる。それによって図形の本質を幾何学的に考察する。

- 「読書論述研究」

興味・関心のある分野の専門書、または日本（中国）の古典文学作品を読み、内容を要約したうえでグループ討論し、考察する。また、考察した内容を他者に興味を持ってもらえるように伝える方法学ぶ。

- 「劇的紀行文を書く」

各自が興味のある歴史上の人物や事件、名所、旧跡などへのフィールド調査を行う。事前の準備で調べたことと現地での調査をすり合わせ、発見したことや心情の動くを記録し、これをもとに紀行文を書き記す。

- 「異文化研究」

日豪の分化比較、他文化圏の芸術・文学・思想を研究、英米文学の作家の代表的な詩・演劇・小説

の社会背景や文化的敗けを調べる。英語の言語を探る。英語におけるジェスチャーの役割、海外映画の探求、実践英語会話などからテーマを選び学ぶ。

- 「トレーナ論」

将来スポーツトレーナーを目指す人のために、人体解剖学・テーピング論・スポーツマッサージ・ストレッチ等を探求する。

- 「食物と健康のかかわり」

「自動販売機のジュース分析」「味付けの好みによる塩分使用量」「Ca を含んだ食品とその調理法」「スポーツによる強化メニューを調べる」「自分の食べている間食の成分と健康への影響を考える」「コンビニの食品と手作りお弁当の成分を調べ比較する」等と身近なテーマを設定した上で学び探究する。

- 「子供文化」

①絵本の読み聞かせの方法を学び、お話し会を企画し、外部（保育園・図書館）で実習を行う。②絵本の種類、絵本作家、良い絵本の見分け方などを研究し、自分たちで絵本、紙芝居を作成する。③小学校で英語を使って子供と遊ぶ遊び方を考え、実習する等を行い探究する。

- 「体育理論」

テーマに基づいたトレーニングを作って探究する。手順は、「体の仕組みを知る」⇒「トレーニングの効果を知る」⇒「方法を考える」⇒「プログラムを作成」⇒「実践してみる」⇒「再興する」⇒「発表する」等と設定した上で学んでいく。

- 「研究！ビジュアルスポーツ」

グループで各スポーツ種目を選択し、バイオメカニクスの視点から考察し探求する。例えば陸上競技の100m競争の、走り方を分析し、今と昔で著しい記録の向上を遂げた陰にフォームの改善等があったことを知り、今後日本人選手が海外選手に勝つにはどのような部位をトレーニングし、何を改善していくべきかを探求する。

- 『進路のための実践的調べ学習』

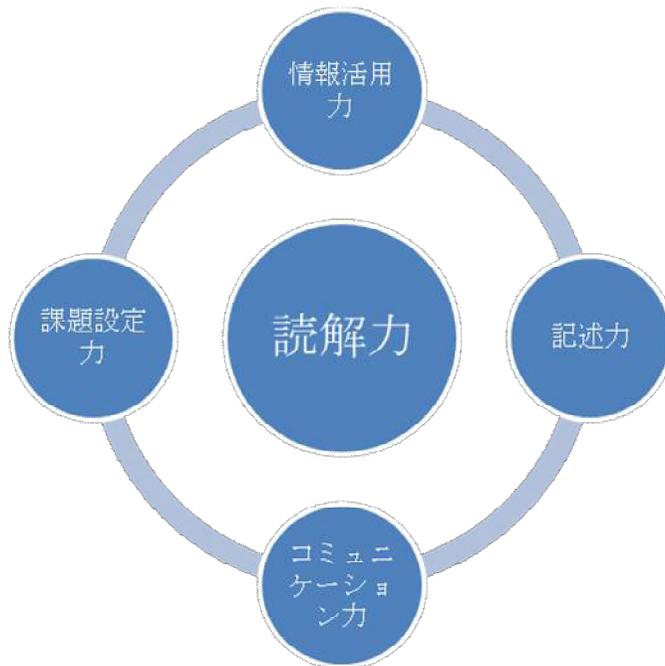
就職や進学に際しても、あるテーマについてさまざまな情報を集め、それに基づいて考え、わかりやすさを追求し、その内容を自身でまとめ、自分の意見を発表することを求める。ここでは学生の興味を引きそうなテーマを設定し、その内容を調べ、精査し、報告書にまとめ、将来に備えることを目的とする。図書館やインターネットの利用の仕方、パソコンを用いた報告書の作り方も習得してもらい工夫していく過程を大事にする。

具体的に、下記の表のとおりである。また、問題の把握、原因の調査・分析等と当初で設定を行うことで、スムーズに講義に集中させるように取り組んでいる。下記、「読解導入ワークシート」を参考資料として示す。

| | | 基盤期 | | 伸長期 | |
|------------|---|--|--|--|---------|
| | | <ul style="list-style-type: none"> 自分の思いや考えを評価するための語彙を増やし、表現活動に親しむことができる。また、テキストから必要な情報を収集し、選択し、活用するとともに、自分の考えを筋道立てて表現することができる。 読書に親しみ、課題を解決するためにいろいろなジャンルの図書を活用し、自分の考えを表現することができる。 | | <ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを目的や意図に応じて効果的に伝えたり、相手の意見を評価して受け止め、相手が納得できるように工夫して表現したりすることができる。また、自分の考えを効果的に表現するために必要な情報を多様なテキストから収集、選択、分析し、体験あるいは他の情報を関連付けて解釈したり、評価したりするとともに、自分の考えを目標や意図に応じて表現できる。 目的に応じて読書活動を展開し、自分の目的を達成するために必要な図書を効果的に活用し、自己を向上させ、社会生活に生かすことができる。 | |
| | | キーステージⅠ | キーステージⅡ | キーステージⅢ | キーステージⅣ |
| | | 基礎・基本の獲得期 | 基礎と基本の習得と活用期 | 学びの充実期 | 学びの発展期 |
| 目 標 | ○課題設定力 | ○課題設定力 | ○課題設定力 | ○課題設定力 | ○課題設定力 |
| | <ul style="list-style-type: none"> 基本的なテキストを選び、自分の体験や経験から課題を設定することができる。 ○情報活用力 テキストに書かれた情報と自分の知識や経験を結び付けて、想像したり、感想をもったりすることができる。 ○記述力 目的に合わせ、自分の考えが伝わるように簡単な文章を書くことができる。 ○コミュニケーション力 相手と自分の考えを比べながら対話することができる。 | <ul style="list-style-type: none"> 多様なテキストを選び、自分の経験とテキストを結び付けて課題を設定することができる。 ○情報活用力 テキストに書かれた情報を自分の知識や経験と結び付けて考えることができる。 ○記述力 読み解いた情報と自分の知識や経験を結び付けて自分の考えを文章に書き表すことができる。 ○コミュニケーション力 相手の考えと自分の考えの相違点を明確にしながら対話することができる。 | <ul style="list-style-type: none"> 多様なテキストから情報を検証・分析し、時間・場所等をふまえて相手意識をもって課題設定をすることができる。 ○情報活用力 複数のテキストの内容を必要に応じて統合したり、比較、対象、分類したりして考えることができる。 ○記述力 目的に応じて表現する内容を様式を意識して選択し、条件などをふまえて意図が明確になるように文章に書き表すことができる。 ○コミュニケーション力 相手の意見や主張の意図をくみ取りながら、建設的に批判したり評価したりして対話することができる。 | <ul style="list-style-type: none"> 多様なテキストから情報を検証し、目的、対象、方法を明確にして実社会、実生活に生かせるような課題設定をすることができる。 ○情報活用力 多様なテキストの内容を必要に応じて統合したり、比較、対象、分類したりして考えることができる。 ○記述力 目的・対象に応じて表現する内容を意識して選択し、立場を明確にしたうえで論理の展開を工夫して文章に書き表すことができる。 ○コミュニケーション力 相手の意見や主張を評価して受け止め、建設的に批判したり評価したりして、表現を工夫して対話することができる。 | |

【表4】

読解力を高めるためにつけたい4つの力統計表



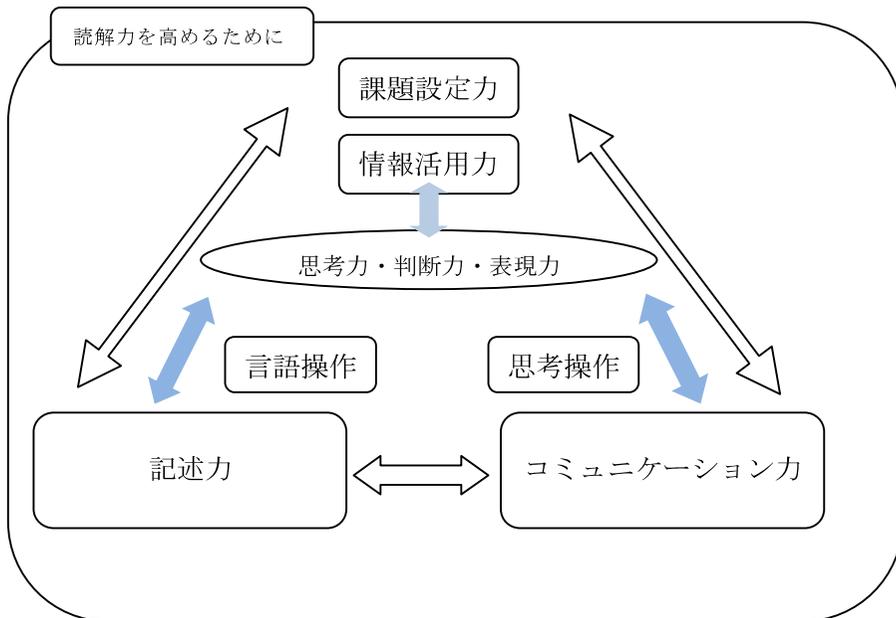
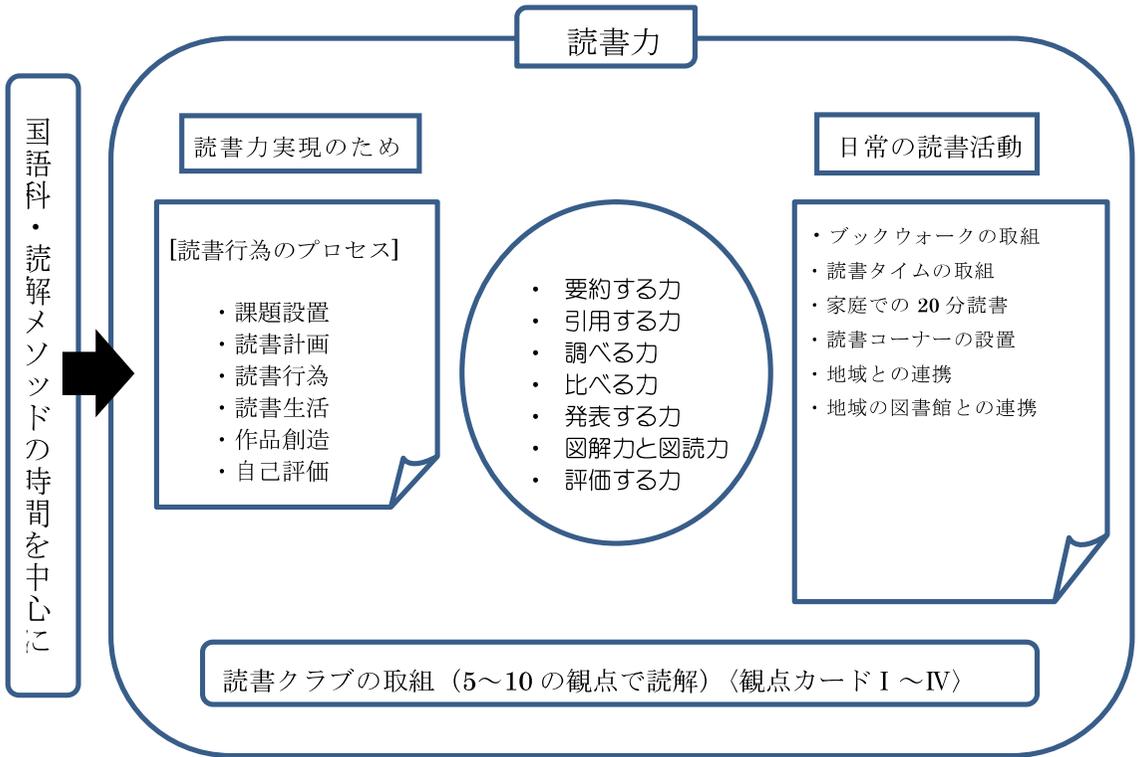
出所) 著者作成

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|--|--|------------------------------------|-------------------------------|--|--|--|---------------------------------|--------------------------------|--------------------|-----------------------------|-------------------------------------|------------------------------|-----------|-----------------------------|------------------------------------|---|-------------------------------|
| 身につけたい力 | <h2 style="margin: 0;">具体的な能力</h2> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 課題設定力 | <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td data-bbox="209 382 281 639" rowspan="6" style="text-align: center; vertical-align: middle;">課題設定</td> <td data-bbox="281 382 1269 417">・学習課題をとらえ、学習の目的がわかる。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="281 417 1269 452">・テキストやテーマ、既習事項をもとに、学習課題を設定する。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="281 452 1269 486">・身近な話題や関心のあることをもとに、学習課題を設定する。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="281 486 1269 566">・目的に応じて、参考文献、取材、協議などの方法を選び、学習課題を設定する。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="281 566 1269 600">・相手意識をもち、状況、時間を考えて学習課題を設定する。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="281 600 1269 639">・課題を解決するための方法を考える</td> </tr> <tr> <td data-bbox="209 639 281 788" rowspan="4" style="text-align: center; vertical-align: middle;">学習計画</td> <td data-bbox="281 639 1269 674">・友達と相談しながら、おおまかな学習計画立てる。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="281 674 1269 709">・既習内容をもとに学習計画を立てる。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="281 709 1269 743">・目的意識を明確にもち、時間を考えて学習計画を立てる。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="281 743 1269 788">・学習計画を修正したり改善したりする。</td> </tr> </table> | 課題設定 | ・学習課題をとらえ、学習の目的がわかる。 | ・テキストやテーマ、既習事項をもとに、学習課題を設定する。 | ・身近な話題や関心のあることをもとに、学習課題を設定する。 | ・目的に応じて、参考文献、取材、協議などの方法を選び、学習課題を設定する。 | ・相手意識をもち、状況、時間を考えて学習課題を設定する。 | ・課題を解決するための方法を考える | 学習計画 | ・友達と相談しながら、おおまかな学習計画立てる。 | ・既習内容をもとに学習計画を立てる。 | ・目的意識を明確にもち、時間を考えて学習計画を立てる。 | ・学習計画を修正したり改善したりする。 | | | | | | |
| | 課題設定 | | ・学習課題をとらえ、学習の目的がわかる。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | ・テキストやテーマ、既習事項をもとに、学習課題を設定する。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | ・身近な話題や関心のあることをもとに、学習課題を設定する。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | ・目的に応じて、参考文献、取材、協議などの方法を選び、学習課題を設定する。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | ・相手意識をもち、状況、時間を考えて学習課題を設定する。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | ・課題を解決するための方法を考える | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 学習計画 | ・友達と相談しながら、おおまかな学習計画立てる。 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | ・既習内容をもとに学習計画を立てる。 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | ・目的意識を明確にもち、時間を考えて学習計画を立てる。 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ・学習計画を修正したり改善したりする。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 情報活用力 | <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td data-bbox="209 788 281 1012" rowspan="6" style="text-align: center; vertical-align: middle;">情報収集・情報選択</td> <td data-bbox="281 788 1269 823">・聞いた（読み取った）内容をメモにとる。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="281 823 1269 857">・聞いた（読み取った）内容を目的に応じて、箇条書きにしてメモにとる。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="281 857 1269 892">・目的に応じて情報集の方法や、検索のシステムがわかる。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="281 892 1269 971">・課題を解決するための情報を収集するために、学校図書館や地域の図書館を活用する。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="281 971 1269 1012">・課題解決に必要な情報を図書や新聞などから収集する。</td> </tr> </table> | 情報収集・情報選択 | ・聞いた（読み取った）内容をメモにとる。 | ・聞いた（読み取った）内容を目的に応じて、箇条書きにしてメモにとる。 | ・目的に応じて情報集の方法や、検索のシステムがわかる。 | ・課題を解決するための情報を収集するために、学校図書館や地域の図書館を活用する。 | ・課題解決に必要な情報を図書や新聞などから収集する。 | | | | | | | | | | | | |
| | 情報収集・情報選択 | | ・聞いた（読み取った）内容をメモにとる。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | ・聞いた（読み取った）内容を目的に応じて、箇条書きにしてメモにとる。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | ・目的に応じて情報集の方法や、検索のシステムがわかる。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | ・課題を解決するための情報を収集するために、学校図書館や地域の図書館を活用する。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | ・課題解決に必要な情報を図書や新聞などから収集する。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 情報活用力 | | <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td data-bbox="209 1012 281 1352" rowspan="7" style="text-align: center; vertical-align: middle;">情報収集・情報選択</td> <td data-bbox="281 1012 1269 1047">・課題解決に必要な情報を図や絵、写真、表やグラフなどから収集する。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="281 1047 1269 1081">・図鑑や絵本を活用して、調べる</td> </tr> <tr> <td data-bbox="281 1081 1269 1116">・書籍やメディアからの引用のしかたがわかる。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="281 1116 1269 1195">・本やインターネット、メディアから、的確な情報を収集して、自分の考えを書きまとめる。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="281 1195 1269 1275">・パンフレット、ガイドブック、白書、小冊子から情報を収集して、必要な内容を記録したり活用したりする。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="281 1275 1269 1309">・辞典や辞書、年鑑を活用して、調べたいことを明確にして調べる。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="281 1309 1269 1344">・インタビューを通して、情報を収集し、必要な内容を記録する。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="209 1352 281 1649" rowspan="3" style="text-align: center; vertical-align: middle;">情報解</td> <td data-bbox="281 1352 1269 1387">・テキストのタイトルから内容を想像する。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="281 1387 1269 1421">・テキストの内容が大体わかる。（いつ、どこで、だれが、何を、どうした）</td> </tr> <tr> <td data-bbox="281 1421 1269 1456">・テキストの内容を字数制限など、条件付きのもと要約する。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="209 1649 281 1738" rowspan="4" style="text-align: center; vertical-align: middle;">連続型テキスト解釈</td> <td data-bbox="281 1649 1269 1684">・物語の登場人物の人物関係を、主人公を中心に把握する。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="281 1684 1269 1719">・民話や昔話を読み、おもしろいところや気に入ったところを見つける。」</td> </tr> <tr> <td data-bbox="281 1719 1269 1790">・シリーズ本を読み、そのおもしろさやよさについて印象を広げたり意見をもったりする。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="281 1790 1269 1825">・書かれたテキストを読み、文章の構成や構造の特徴をつかむ。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="281 1825 1269 1860">・ドキュメンタリー、紀行文、エッセイを読み、著者の考え方に対する自分の意見をもつ。</td> </tr> </table> | 情報収集・情報選択 | ・課題解決に必要な情報を図や絵、写真、表やグラフなどから収集する。 | ・図鑑や絵本を活用して、調べる | ・書籍やメディアからの引用のしかたがわかる。 | ・本やインターネット、メディアから、的確な情報を収集して、自分の考えを書きまとめる。 | ・パンフレット、ガイドブック、白書、小冊子から情報を収集して、必要な内容を記録したり活用したりする。 | ・辞典や辞書、年鑑を活用して、調べたいことを明確にして調べる。 | ・インタビューを通して、情報を収集し、必要な内容を記録する。 | 情報解 | ・テキストのタイトルから内容を想像する。 | ・テキストの内容が大体わかる。（いつ、どこで、だれが、何を、どうした） | ・テキストの内容を字数制限など、条件付きのもと要約する。 | 連続型テキスト解釈 | ・物語の登場人物の人物関係を、主人公を中心に把握する。 | ・民話や昔話を読み、おもしろいところや気に入ったところを見つける。」 | ・シリーズ本を読み、そのおもしろさやよさについて印象を広げたり意見をもったりする。 | ・書かれたテキストを読み、文章の構成や構造の特徴をつかむ。 |
| | 情報収集・情報選択 | ・課題解決に必要な情報を図や絵、写真、表やグラフなどから収集する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | ・図鑑や絵本を活用して、調べる | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | ・書籍やメディアからの引用のしかたがわかる。 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | ・本やインターネット、メディアから、的確な情報を収集して、自分の考えを書きまとめる。 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | ・パンフレット、ガイドブック、白書、小冊子から情報を収集して、必要な内容を記録したり活用したりする。 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | ・辞典や辞書、年鑑を活用して、調べたいことを明確にして調べる。 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | ・インタビューを通して、情報を収集し、必要な内容を記録する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 情報解 | ・テキストのタイトルから内容を想像する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | ・テキストの内容が大体わかる。（いつ、どこで、だれが、何を、どうした） | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | ・テキストの内容を字数制限など、条件付きのもと要約する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 連続型テキスト解釈 | ・物語の登場人物の人物関係を、主人公を中心に把握する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | ・民話や昔話を読み、おもしろいところや気に入ったところを見つける。」 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | ・シリーズ本を読み、そのおもしろさやよさについて印象を広げたり意見をもったりする。 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ・書かれたテキストを読み、文章の構成や構造の特徴をつかむ。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ・ドキュメンタリー、紀行文、エッセイを読み、著者の考え方に対する自分の意見をもつ。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | |
|-----------------------|---|---|
| 記述力 | 考察・評価 | ・テキストを読み、テキストの全体と部分に関連付けて考える。 |
| | | ・複数のテキストを読み比べ、推論したり考察したりする。 |
| | | ・テキストの内容の大体を理解し、気に入ったところを見つけて感想を述べたり評価したりする。 |
| | | ・テキストの内容を読み、情報と正当性や客観性・信頼性について自分の知識や経験と関連付け、建設的に批判したり評価したりする。 |
| | | ・作者や筆者について、年譜や作品リスト、著者紹介欄などを活用し、その生き方や考え方を読み、自分と関連付けて考える。 |
| | 考察・表現・解釈 | ・テキストから気に入った表現の工夫を見つける。 |
| | | ・比喩表現や情景描写など、作品の特徴となる表現の工夫を読み味わい、活用する。 |
| | | ・書かれたテキストの様式の内容・構造の特徴をつかむ。 |
| | 非関連型テキスト解 | ・図や表、グラフから規則性を発見する。 |
| | | ・図や絵、表やグラフ、映像などのテキストから、意図するものを読み取り、さまざまな観点から解釈し、自分の考えをつくる。 |
| | 意見文・説明文 | ・自分の思いや考えを絵や図など非言語様式で表現する。 |
| | | ・自分の思いや考えを 50～200 字程度などの条件もとのとで簡潔に書く。 |
| | | ・はじめ—中—終わりのまとまりを意識して文章を書く。 |
| | | ・客観的な根拠や理由に基づき、自分の考えや意見、主張を 200～400 字程度のまとまりのある文章を書く。 |
| | | ・新聞の形式、様式を意識して自分の考えを表現する。 |
| ・事実と自分の考えを区別して意見文を書く。 | | |
| ・思考、分析、判断を伴った意見文を書く。 | | |
| 記録・報告分 | ・様式を意識して観察記録文を書く。 | |
| | ・様式を意識して観察報告文を書く。 | |
| | ・様式を意識して体験報告文を書く。 | |
| | ・様式を意識して調査報告文を書く。 | |
| | ・様式を意識して研究報告文を書く。 | |
| 感想・書評 | ・テキストから感じたことを 200～600 字程度で感想文として書く。 | |
| | ・テキストを読み、読者としての自分の考えを中心に感想文や書評として 800～1200 字程度書く。 | |
| | ・感想語彙、評価語彙を意識して自分の表現に活用する。 | |
| 引用 | ・テキストの内容の一部を引用して、意見や説明をする。 | |
| | ・間接引用と直接引用の違いを意識し使い分けて活用する。 | |
| | ・引用した内容に対する自分の考えを書く。 | |

| | | |
|--|------------------------------|--|
| | 手紙文 | <ul style="list-style-type: none"> ・手紙の様式を理解して、身近な人に手紙を書く。 ・目的や意図を明確にして、様式を理解したうえで礼状や依頼状を書く。 |
| コミュニケーション力 | 司会 | <ul style="list-style-type: none"> ・司会進行役として、タイムテーブルを意識して会議や討論、協議を進めていく。 ・司会として、会議や討論、協議の様式を意識し、意見を整理したり、分類したり、まとめたりしながら進めていく。 |
| | 対話 | <ul style="list-style-type: none"> ・非言語様式を踏まえて、相手と対話する。 |
| | | <ul style="list-style-type: none"> ・相手の考えや意見を聞き、質問したり意見を述べたりする。 |
| | | <ul style="list-style-type: none"> ・二人組で意見や考えを交流する。 |
| | | <ul style="list-style-type: none"> ・グループ（4人～6人）で意見や考えを交流する。 |
| | | <ul style="list-style-type: none"> ・10人程度のグループで意見や考えを交流する。 |
| | | <ul style="list-style-type: none"> ・補足・確認・質問・解説・意見・説明・報告などの様式を意識して話す。 |
| コミュニケーション力 | 説明・報告 | <ul style="list-style-type: none"> ・内容の順序を考えて、話したり説明したりする。 |
| | | <ul style="list-style-type: none"> ・はじめ—中—終わりの構成を考えて、話したり説明したりする。 |
| | | <ul style="list-style-type: none"> ・結論を先に述べて、その理由や根拠を説明する。 |
| | | <ul style="list-style-type: none"> ・様式を意識して観察報告する。 |
| | | <ul style="list-style-type: none"> ・様式を意識して体験報告する。 |
| | | <ul style="list-style-type: none"> ・様式を意識して調査報告する。 |
| | | <ul style="list-style-type: none"> ・様式を意識して研究報告する。 |
| | テキスト説明 <small>非連続</small> | <ul style="list-style-type: none"> ・表やグラフ、図やポスターなどのテキストを示しながら考えを説明し合う。 |
| | | <ul style="list-style-type: none"> ・図や表、収集したデータを自分の表現に活用してプレゼンテーションする。 |
| | | |
| コミュニケーション力 | 敬語 | <ul style="list-style-type: none"> ・言葉を適切に使い分け、敬語などその場にふさわしい言葉を使って会話（対話）する。 |
| | 自己評価 | <ul style="list-style-type: none"> ・学習を振り返り、よくできたことや、次がんばりたいことを中心に自己評価する。 |
| | | <ul style="list-style-type: none"> ・友達の考えや意見のよさを目的に照らし合わせてよさや改善点を含め、評価し合う。 |
| | | <ul style="list-style-type: none"> ・学習を振り返り、目的を意識した自己評価をする。 |
| | | <ul style="list-style-type: none"> ・学習を振り返り、課題解決、情報活用、記述、コミュニケーション場面などプロセスを意識し、メタ認知する。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・学習して獲得したことを実生活・実社会に生かしていくことを意識する。 | | |

【表5】
〈読解力の基盤〉



【「読解」導入ワークシート】

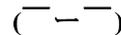
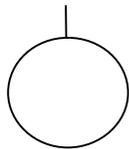
| | |
|---|----------|
| | 年 組 番 氏名 |
| 本時の主題：①「読解」について知る〈15分〉②グループワークの導入〈1〉〈30分〉 | |

1. 「読解」ってどんな授業？

読解とか読解力といえは国語を思い浮かべる人も多いと思いますが、この「読解」の授業で取り組む内容は、読み取るテキストの範囲がより広い点で国語とは少し違います。「読解」のテキストは国語の教科書や入試問題に出てくる文章だけでなく、数式やグラフ、絵画やポスターやマンガなどの絵や写真、音楽、などあらゆるものを含みます。

ポイント1：あらゆるものが「読解」のテキストだ

【問題1】次の記号や表情から、あなたは何を読み取りますか。



さて、テキストを読み取ったとして、あなたは次のアクションを起こさねばなりません（「何もしない」というのも一つのアクションとみなされます）。次のアクションが適切でなければあなたは大きな不利益をこうむるかもしれません（ケンカになるとか咬みつかれるとか…）。

「読解」という授業の最終的な目標は、読み取った次のアクションを考えること、つまり自分の気持ちや考えを状況に応じた適切な形で表現することです。社会生活は各人がそれぞれの意見を伝えあうことで成り立っていますが、意見を言う場面、場面で要求される表現の形が異なっています。どのような場合にどのような形式で表現すればよいかを読み取ることが「読解」の重要なポイントです。

ポイント2：「読解」の目的は自分の意見を表現すること

どのような形式で表現すればよいかを読み取ることが「読解」だ

【問題2】あなたが新しいクラスで自己紹介する場合と、新しいクラブに入部して自

己紹介する場合では内容がどのように変わるかを考えなさい。また、新しい友人に自己紹介する場合と就職面接とではどう違うだろうか。

2. グループワークの導入

「読解」の授業では（「読解」以外の各教科でも）4、5人のグループに分かれてディスカッションする「グループワーク」が実施される。グループワークはなぜ必要なのだろう。

(1) 人によって得意・不得意は様々だ。1人ではなかなか考えが進まない時、周りの仲間と一緒に考えれば、お互いの知っていることを出し合って、考えるための材料を増やすことができるし、それぞれの得意を合わせることで、1人では出せない答えを導き出すことができる。またお互いの意見がヒントになり、「そういえば…」と思いだしたり、新しいアイデアを思いついたりすることもある。さらに自分1人で考えていると、偏った意見になってしまうことがある。そんなとき、同じテーマについて仲間の意見を聞いたり、自分の意見について仲間はどう思うのかを知ることで、自分の意見をより客観的に見るようになる。グループで考えを交換することで、より多くの人々が納得できる意見をだすことができるようになるのだ。

ポイント1：3人寄れば文殊の知恵

(2) 社会生活では、何か問題があると、周りの人やその問題に詳しい人に相談しながら解決していく。またどんな会社でも、1人きりで仕事をしていることはほとんどなく、チームやグループで仕事を任されていることが普通だ。そこで重要なのはグループで協力して問題を解決できる能力だ。多くの会社の採用担当者が、新入社員に求める能力は、「知識」ではなく「知識を運用する力」と「チームで協働できる力」だと言っている。チームで協働するために最も必要なものはコミュニケーション能力だ。グループワークは、この「チーム力」、「コミュニケーション能力」を育てるのだ。

ポイント2：最大の武器「チーム力」、「コミュニケーション力」を養う

【演習1】実際にグループに分かれて、『グループ学習マニュアル』に沿って、グループワークの手順を確認しよう。

3. 「グループワークの導入」単元計画（3時間）

- | | | | |
|-----|-----|-------------------------------|---------------------|
| 1時限 | 4/× | ①「読解」について知る | ②グループワークの導入〈1〉手順の確認 |
| 2時限 | 5/× | グループワークの導入〈2〉バス遠足の行き先について討論する | |
| 3時限 | 5/× | グループワークの導入〈3〉修学旅行の行き先について討論する | |

・グループ学習ワークシート

| | |
|---------------------------------|-----------|
| 読解P グループワークの導入2 H××年×月×日 | 1年 組 番 氏名 |
| 本時の主題：手順を踏まえて実際にグループで活動する 〈45分〉 | |

1. 前時の確認〈5分〉

(1) グループワークに取り組む理由は？

①()人寄れば文殊の知恵 ②社会では「()力」が最大の武器

- (2) 『グループワーク・マニュアル』には、
 A 「さまざまな意見を()」ためのものと、
 B 「さまざまな意見をまとめ()を導く」ための2種類がある

2. 『グループワーク・マニュアルA』に従って、実際にグループで活動してみよう。
 〈40分〉

【演習1】 次のテーマについてさまざまな意見を出し合いなさい。
 テーマ：校則で高校生がアルバイトをすることを禁止すべきか、認めるべきか？

◆個人ワーク：まずは個人で、テーマについて考えよう。〈5分〉

考えるヒント 小遣い 勉強 クラブ 時間 友達 生活 社会勉強 その他

| | メリット | デメリット |
|--------|------|-------|
| 禁止すべき | | |
| 認めるべき | | |
| [私の結論] | [理由] | |

◆グループワーク：今回はデモンストレーションとして、クラス全体で。〈15分〉

| 主張 | 理由 |
|-------|----|
| 禁止すべき | |
| 認めるべき | |

【演習2】 次のテーマについてグループで意見を出し合いなさい。

テーマ：高校生に制服はあったほうがよいか、私服でよいか？

◆個人ワーク：まずは個人で、テーマについて考えよう。(5分)

考えるヒント 便利さ 費用 清潔さ 好み 個性の表現 一体感 統一感
生徒指導上の観点 その他

| | メリット | デメリット |
|--------|------|-------|
| 制服がよい | | |
| 私服でよい | | |
| [私の結論] | [理由] | |

◆グループワーク：マニュアルAに従って、実際にグループで活動してみよう。(15分)

| 主張 | 理由 |
|-------|----|
| 制服がよい | |
| 私服でよい | |

*グループで出されたさまざまな意見から、自分とは異なった角度から見ることを学ぼう。

むすび（玉木）

OECD の PISA 調査における「読解力」とは、「自らの目標を達成し、自らの知識と可能性を発達させ、効果的に社会に参加するために、書かれたテキストを理解し、利用し、熟考する能力」であると定義されている。成美高校で取り組んだ「読解力」もまさにこの PISA 型読解力である。読解力は各教科を貫く力があり、各教科等に作用する効果がある。

学習効果に期待し、試験的に採用した結果、生徒の学力は個々によってバラツキはあるが、全体的に学習意欲も上がり素直な態度で学習に取り組むことが出来た。その取り組み実態をふまえ、主体的に対象とかかわることで自らの課題を解決し、自分の考えを的確に表現し、さらに学んだことを活用する自己教育力を身に付けた生徒を育てたいという理念をふまえた上で考えた。これはすなわち、教育基本法や新学習指導要領で謳われている「生きる力」の育成にほかならない。「読解力」の定義を斟酌すると、それは「生きる力」の育成とおおいに関連があり「生きる力」を育む具体的な取り組みとして「読解力」の育成に努めることが重要であると考えた。

そこで、教育、教員の質的向上を図るため、読解力を育てることが自分たちの共通した教育理念であると確認し、2009年10月に成美高校から2名の教員をフィンランドに派遣し、小、中、高、教育庁に訪問して、フィンランドの教育実情・教育理念および教育実践の視察研修を行った。学年、科目の根幹を成すものであるため、共通認識の下、カリキュラムの改善、創造、そして具体的な授業改善に取り組み、2010年4月より新教科「読解科」を教育課程上に位置付け、新しい取り組みをスタートさせた。見込んだ通り、読解力は各教科を貫く能力でもあることから、すべての教科指導においても、読解力の向上を目指していくものである。

また、フィンランド教育を基盤とした「学びのメソッド」を取り入れた授業を行った結果「学びのメソッド」は課題を設定し、資料を読み、必要な情報を取り出し、自分の考えを効果的に表現し、さらにグループでの発表・討論を通じて表現方法や内容について評価しあい、考えを深めるという形で展開され、生徒が「問題設定力」「情報収集力」「論理的思考力」「表現力」「コミュニケーション力」を総合的に身につけることができた。

読解のプロセスを重視し、「生徒主体の授業を構造する」「言語活動の充実を図る」「学びのプロセスを重視する」「言語操作と思考操作の関連を図る」「読書力育成のための読書活動の充実を図る」「多様なテキストに対応した力を育成する」などの点に留意し、学力向上のために取り組んできた。

「学びのメソッド」導入時、読解力育成の授業を実践している高校はほとんどなく、生徒に何のための学習であるかを理解させる難しさや、教材研究の時間が多くなり、負担が増えることを懸念する教員への理解を得るための研修に多くの時間を費やした。

「読解力」は、時代を問わず人間が生活していくうえで必要不可欠な能力である。情報化社会において、何らかの情報を「読解」する機会は少なくない。メディアが多様化している現代においては、必要な情報を正しく「読解」する能力が今後ますます求められる。各教育機関でも、多様な情報の種類に応じて「読解力」育成の取り組み方を工夫する必要性を強調する。

《参考文献》

- (1) 照屋華子、岡田恵子『ロジカル・シンキング 論理的な思考と構成のスキル』東洋経済新報社(2008)
- (2) 中川邦夫『問題解決の全体観』コンテンツファクトリー(2008)
- (3) 『自分の答えの作り方』
- (4) グロービス経営大学院『MBAクリティカル・シンキング』ダイヤモンド社(2012)
- (5) 齋藤嘉則『問題解決プロフェッショナル 思考と技術』ダイヤモンド社(2010)
- (6) 大石哲之『過去問で鍛える地頭力』東洋経済新報社(2009)
- (7) コゼンティーノ マーク、辻谷一美・外資系企業研究会【訳】『戦略コンサルティング・ファームの面接試験』ダイヤモンド社(2008)
- (8) スターン スコット、シーファー アダム、竹本毅【訳】『考える技術』日経B P社(2015)
- (9) 三枝匡『戦略プロフェッショナル』ダイヤモンド社(2013)
- (10) バーバラ・ミント、山崎 康司【訳】『考える技術・書く技術』ダイヤモンド社(1999)
- (11) スティーブン・G・ブランク、堤 孝志/渡邊 哲【訳】『アントレプレナーの教科書』翔泳社(2009)
- (12) 前野隆司『思考の整理術』朝日新聞出版(2009)
- (13) グレイ デイブブラウン、サニー、マカヌフォ ジェームズ【著】野村恭彦【監訳】武舎広幸/武舎るみ【訳】『ゲームストーリーミング』オライリー・ジャパン(2011)
- (14) 佐藤義典、『図解 実戦マーケティング戦略』日本能率協会マネジメントセンター(2005)
- (15) 板倉宏昭『経営学講義』勁草書房(2010)

《注》

- (1) 日本学術振興会によると「我が国の高等教育の国際競争力の向上を目的に、海外の卓越した大学との連携や大学改革により徹底した国際化を進める、世界レベルの教育研究を行うトップ大学や国際化を牽引するグローバル大学に対し、制度改革と組み合わせ重点支援を行うことを目的」として、特化された大学である。文部科学省は、大学の国際競争力を高めるために重点的に財政支援する「スーパーグローバル大学」に、国公立大37校を選抜し、2023年度までの10年間に1大学当たり最高約4億2千万円の補助金を毎年支給するとしている。日本経済新聞(2014年9月26日)。
- (2) 福知山成美高校は、2016年度高校偏差値63の名門校である。著者玉木は、福知山成美高校で校長を8年務め、本フィンランド教育を取り入れた。新たに学びのメソッドを開発し、理論と実践とバランスが取れた学びを通じて、一人ひとりの個性の伸長と自ら学ぶ力を養い多くの学生を輩出した。
- (3) 文部科学省「現行学習指導要領・生きる力」2012年公表。
- (4) OECD「OECD生徒の学習到達度調査(PISA)」国立教育政策研究所。
- (5) 内閣府「人間力戦略研究会報告書」人間力戦略研究会(2003)。
- (6) 文部科学省「OECDにおける「キー・コンピテンシー」について」(資料4-1未投稿)、原本については、OECD“The Definition and Selection of KEY COMPETENCIES”2010。

- (7) 厚生労働省「「YES-プログラム」の概要（若年者就職基礎能力支援事業 Youth Employability Support Program）」2009。
- (8) 経済産業省「社会人基礎力育成の好事例の普及に関する調査（2013年度事業）」経済産業政策局 産業人材政策室。
- (9) 文部科学省「「学士課程教育の構築に向けて」中央教育審議会答申の概要」研究振興局振興企画課。
- (10) 文部科学省「OECD「高等教育における学習成果の評価（AHELO）」フィージビリティ・スタディ」、詳しくは、OECD, Measuring Learning Outcomes in Higher Education: Lessons Learnt from the AHELO Feasibility Study and Next Steps 参照。
- (11) 日本経営者団体連盟「エンプロイヤビリティの確立をめざして」（1999）。
- (12) 文部科学省「国際成人力調査（PIAAC：ピアック）」、国立教育政策研究所等。OECD, Programme for the International Assessment of Adult Competencies : PIAAC。
- (13) 松下佳代編著・京都大学高等教育研究開発推進センター 編著『ディープ・アクティブラーニング』勁草書房(2015)。
- (14) NAEPとは、米国で定期的に行われる唯一の全国規模の教育測定であり、米国全土の就学、年令の児童生徒を対象にしているテストである。読解力、作文力、数学、科学、歴史などの各分野の学力を測る。
- (15) NAEPを詳細に先行研究として、荒井克弘「全米学力調査（NAEP）の研究」全米学力調査研究会、2005年7月公表参照。
- (16) 秋田喜代美「読解力育成のための教育実践とその評価」2006年10月5日於：東京大学教育学部、129頁。
- (17) なお、本カリキュラムは、著者が校長職在籍時のカリキュラムである。また、他校との競争的影響から、一部のみ公開する。

